

(一般)

主体的に学びに向かい 対話を通して協働できる子どもを育てる
～資質・能力の育成を中心にすえて～

大阪市立大和田小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

グローバル化が急速に進む国際社会では、専門家も答えを持たない複雑で世界規模の問題が、人間生活を質的に変化させつつある。こうした問題を解決しながら、持続可能な社会を作るためには、誰かが答えを出してくれるのを待つのではなく、一人一人が考えや、知識を持ち寄り、主体的に答えをつくり出すことが求められている。つまり、「何を知っているか」だけでなく、それを使って「何ができるか」「いかに問題を解決できるか」が問われるようになってきた。

さらに、インターネットを始めとする情報化の進展で、既存の知識や情報が調べやすくなっている。そのため、単に知識を覚えていることより、調べたことを使って考え、情報や知識をまとめて新しい考えを生み出す力が大切である。

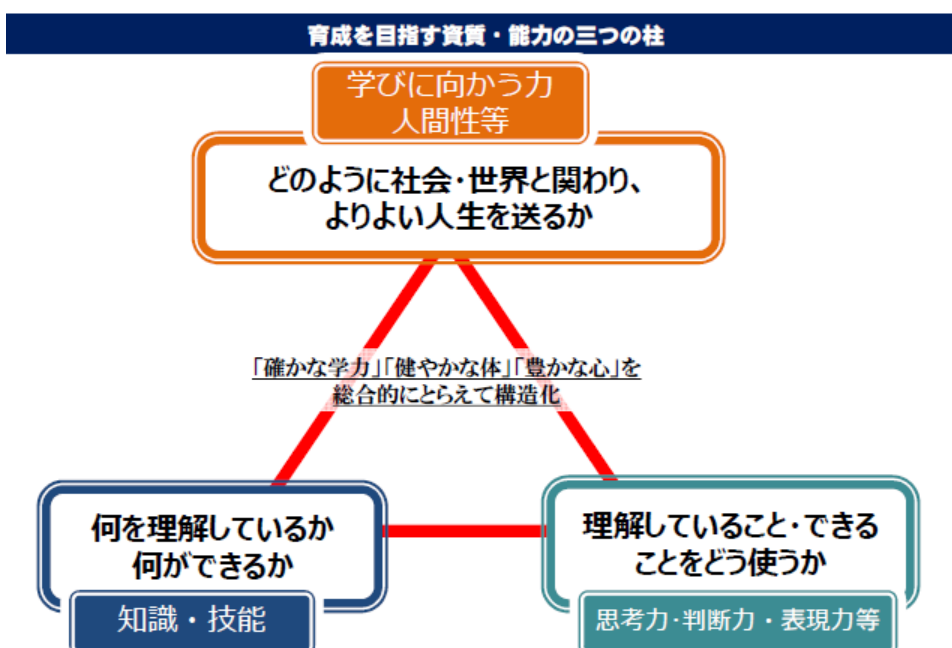
加えて、国際社会は、様々な言語や文化、価値観を持つ人々との交流や協働の機会が増えている。情報化がそれに拍車をかけ、日本にしながら多様な情報や考えに触れる機会も増えてきている。その多様性を生かして、問題を解き、新しい考えを創造できる力、すなわち未来の社会を切り拓く力が重要になってきている。

このような理由から、今年度は研究主題を「主体的に学びに向かい 対話を通して協働できる子どもを育てる」とし、「資質・能力の育成を中心にすえて」を副題として、特定の教科・領域に絞らず、さまざまな場面や方法において、子どもたちに資質・能力を育成していくという研究を進めてきた。

2. 育てる資質・能力

平成 28 年 12 月 21 日中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」においては、「論点整理」を踏まえた議論がなされ、子ども達に育成すべき資質・能力が、以下の三つの柱として再考された。

- i) 「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」
- ii) 「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」
- iii) 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」



本校ではこの三つの柱を、これまでの学校教育の枠組みを発展させつつ整理した、東京学芸大学次世代教育研究推進機構の「21世紀の社会で生きる子どもたちに育成可能な資質・能力」を参考にした。そこには、資質・能力を7つの「汎用的スキル」と8つの「態度・価値」に整理されている。

○ 7つの汎用的スキル	○ 8つの態度・価値
①批判的思考力 (critical thinking)	①愛する心 (mind to love)
②問題解決力 (problem solving)	②他者に関する受容・共感・敬意 (acceptance, sympathy, and respect for others)
③協働する力 (collaboration)	③協力し合う心 (willingness to cooperate)
④伝える力 (communication)	④より良い社会への意識 (interests in the betterment of society)
⑤先を見通す力 (foresight)	⑤好奇心・探究心 (curiosity and inquisitive mind)
⑥感性・表現・創造の力 (sensitivity, expression, and creation)	⑥正しくあろうとする心 (sense of justice)
⑦メタ認知力 (meta cognition)	⑦困難を乗り越える力 (grit)
	⑧向上心 (aspiration)

ここに整理された、7つの「汎用的スキル」と8つの「態度・価値」を、本校の授業研究にも取り入れ、育成すべき資質・能力を目標として掲げながら授業を行った。これらの資質・能力を育成する場面を考え、各教科、道徳、総合的な学習の時間、外国語活動等の授業で育成できる資質・能力をあらかじめ設定した上で、教科等の授業を考え、実践した。そこで、学習指導案にも、単元（題材）を通して育成したい資質・能力を記入し、指導者が意識をもって、意図的に授業づくりを行うことを通して資質・能力を育成してきた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるための方向性や手立てを以下のように設定した。

- 指導者中心の授業から学習者中心の授業への転換（21世紀型授業）
- 言語活動の充実
- 児童の興味関心を高め、主体的で協働的な学びにつなげるためのICTの有効活用
- 教科の内容指導だけでなく、単元を通して育成する「汎用的スキル」や「態度・価値」を意識した授業づくり

4. 研究の成果と今後の課題

（1）研究の成果

- 「汎用的スキル」や「態度・価値」を育成することを目標にかかげたことで、教科内容の指導のみにとどまらず、そこで育成した資質・能力がどのような教科、どのような場面で生かすことができるのかを意識して授業を組み立てることができた。
- 授業におけるICT活用を積極的に進めた。単にタブレット端末や大型テレビモニターを使用するだけでなく、より効果的な使い方、効果的な場面を考え、必要に応じて活用することができた。

（2）今後の課題

- 教科・領域で育成した「汎用的スキル」や「態度・価値」を今後どのような場面、どのような手立てで活用していくのかが課題として挙げられる。これまで以上に教科、道徳、総合的な学習の枠を越え、横断的な指導を心がけながら、児童の資質・能力を伸ばしていく必要がある。